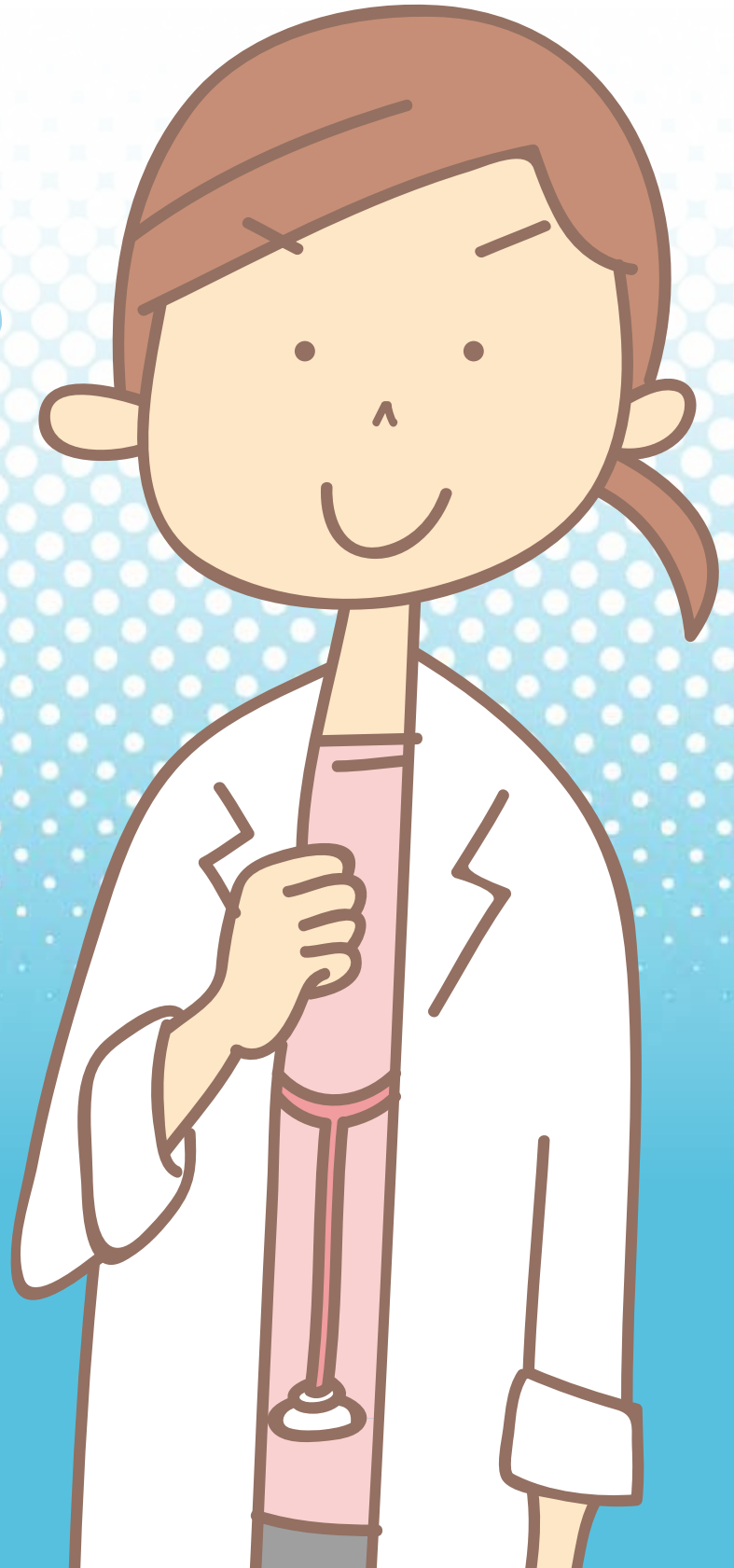


医学生のあなたのための実習&研修情報誌

Shiga

Medi-Wing

滋賀
で
学
ぶ
!!
医
師
の
ハ
ー
ト
は



- 01 医療最前線 民医連医師の現場
- 02 密着! 研修医生活
- 03 自分でつくる実習体験
- 04 医学生センターでしっかり学ぶ
- 05 地域医療ネットワーク

SHIGA×DOCTOR

本当に医師としてやっていけるのだろうか…

漠然とした将来の不安。

勉強とバイトと遊びとデート、毎日時間に追われてる…

なぜか周りには自分より充実しているように見える…

モチベーションを保つこと、これがなかなか難しい…

「いつもほんまにおおきに」って手を握ってくれた

患者さんが教えてくれるたくさんのこと

あっそうか、そうだったんだ…

学ぶ楽しみ、知る喜び。

そのエネルギーは、あなたを支える力となる。

そんな体験をこのまちで

医師のハートは滋賀で学ぶ!!

働くひとびとの医療機関

全国の民主医療機関連合会に加盟する事業所は約1,700、6万2千人の職員が働いていますが、滋賀県では3つの診療所、1つの老人保健施設、3つの訪問看護ステーション、3つのヘルパーステーションなどが加盟し、まだまだ小さい規模です。でも私たちに、約7,000世帯の「友の会」と「医療生協」という、地域の強力な仲間があり、一緒になって地域に役立つ医療、励ましあう医療、ともに助け合う医療を目指しています。医療活動は、看護・介護活動とも切り離せません。地域の中には寝たきりや障害をもった患者さんがたくさんおられ、私たちは往診・訪問看護に取り組んでいます。1つの診療所と、訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、ケ



アマネジャー、老人保健施設、地域のボランティアさんとが一体となって、医療・看護・介護のサービスを提供し、安心して住み続けられる地域づくりに貢献したいと頑張っています。

future 医療最前線

医療の最前線は 人々の生活の場そのもの

医師 今村 浩



future 医療最前線

「住み慣れた自宅で過ごしたい」 の思いにこたえたい

医師 東 昌子



地域を見守り20年

私が働く坂本民主診療所は、開設20年をむかえています。1日約120人の患者さんを、2人の常勤医師で診察しています。主に内科系の病気が多いのですが、小児、けがの縫合、膝・腰痛の整形外科の患者さんなど、現場はまさに家庭医の現場です。また現在約130人の在宅医療に取り組んでいます。そして、年間1,800人くらいの健康診断を行っています。

医師2人体制の強みは、やはり在宅医療に出ます。130人の患者さんに往診していると、日曜でも夜中でも熱が出たり、おなかが痛くなったりします。これを1人の医師で対応していたら、休みがないばかりか、精神も体も持ちません。そこで2人の医師で交互に輪番を決めて急患に対応しています。これからの地域の診療所は、1人医師で出来る時代ではないとつくづく実感します。

プロフィール●坂本民主診療所所長 滋賀民医連会長
1981年京都府立医科大学卒業 虎姫高校卒業
趣味●スキー、バイオリン、ジョギングなど



今村医師は、「介護保険をよくする大津市民の会」の会長も務めています。

低所得者に対する電動ベッドの補助について大津市長と懇談し、「電動ベッドを取り上げれば、利用者の生活は大きな支障をきたします」「寝たきりの方が増え、保険財政を逆に圧迫しかねません」と実際の利用者さんの状況をビデオで紹介。市長も前向きに調査・検討することを約束し、その後、大津市に加えて滋賀県も助成を始めました。医療のことばかりではなく、福祉や介護など、その場で困っている声がたくさんあります。地域をみる、患者さんをみる、そこから自分たちの役割は何かを常に考え、声を発信し、行動に移す。そんな医師像がここにあります。

在宅で患者さんを支える 在宅支援診療所の取り組み

障害や疾病、高齢により介護が必要となり在宅療養をされている方にとって、普段からの体調管理は大切です。熱発や食事量、飲水量減少で急に全身状態が悪化したり、床ずれがでたりします。本人よりも介護者が体調を崩したり精神的に疲労が限界を超える時もあります。患者に足を運び、療養環境を実感する中で療養中の本人、介護者、家族を丸ごと受け止めて、ちょっとした変化を見逃さずケアすることができます。自宅という懐に飛び込むことによって、その人、その家族らしさに共感しながら治療をすすめるのが在宅医療の魅力です。

悪性疾患などで残された日々が限られていると予測される場合、本人にとって家族にとって最も悔いのない療養はどうあるべきかと問う時、「住み慣れた自宅で最後まで過ごしたい」と多くの方が希望されます。苦痛なく自宅で最後を看取れ、本人と家族に「お疲れ様でした」と心からの声かけをできた時が最高の瞬間です。

プロフィール●ぜぜ診療所所長 1987年滋賀医科大学卒業 膳所高校卒業
座右の銘●継続は力なり 趣味●フラワーアレンジメント

ぜぜ診療所では、90数名の訪問診察をしています(08年)。併設の訪問看護ステーションと連携して、24時間患者さんとの連絡体制を取っています。

在宅療養を支える要は「地域との連携」です。患者さんが安心して療養生活を送るためには、患者さんの健康だけでなく、介護者である家族の健康、家庭の経済状況など、生活背景へのサポートが欠かせません。介護する家族、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネジャーなどスタッフと情報を共有し、連携を取ることが大切です。

また、診療所では医療費の減免など行政がつくる社会資源を積極的に活用し、さらに行政に対して、社会保障制度の前進を求める運動もしています。



研修医の1日ドキュメンタリー

大学卒業後、臨床研修指定病院で研修することが必修になりました。今日は京都民医連中央病院で研修中の高橋医師の1日に密着。医学の知識だけではない大切なことが、毎日たくさんあるのです。

いつも笑顔の高橋医師の裏には
どんなドラマがあるのか？
密着体験させていただきました。

START



8:30 朝勉強会

今朝は定期の勉強会。1つのテーマについて、毎週各科の医師が専門領域のガイドラインを中心に30分程度のレクチャーを行います。



今日は1日
高橋先生に密着!!
白衣を着て少しドキドキ
しています。



9:00 回診

入院から退院まで責任を持って患者さんを受け持ちます。受け持ち始めた当初は、いつもどきどきしながら朝を迎えました。色々考えること、やる事があってすでにいっぱい…。指導医からは当たり前のよう色々と厳しい指摘が飛んできます。それでもどんな忙しいときでもきちんと教えてくれる指導医に、いつも感謝の日々。

8:50 朝礼・内科カンファレンス

定期的に行われている内科のカンファレンスです。全員がそれぞれの患者さんのことを把握しているので、内科医師の誰にでも相談できます。

初めて屋上に上がった日、この病院の歴史を、この青空と一緒に教えてもらったんだ。



11:40 屋上で休憩



11:20 救急外来

今日は救急外来の当番。病棟とは違い、一定の時間で診て診断する力が必要になります。



高橋医師の
忙しい日々はまだだづく…

21:00 当直



今日はどんな患者さんがやって来るか。病棟ではどんなことが起こるか。不安でいっぱいの夜の始まりです。

長い
1日だねー



17:00 救急外来

11:50 回診

ここで自分が立てた検査計画や治療方針が正しい方向に進んでいるか、病歴・身体所見に漏れはないかをチェックしてもらいます。回診は、最も充実した時間の一つです。



12:00 ナースとカンファレンス

入院患者さんの退院に向けて、カンファレンスを行っています。この患者さんには今後何が必要なのかを明らかにしていきます。

12:30 救急外来

14:00 医局で休憩

しばしの息抜き。日によって、受け持ち患者さんの状態によって時間はまちまちです。場合によっては昼食を食べられないことも…。

午後から詰め所、医局で書類作成

病棟業務をこなします。カルテ記載も大事な仕事。研修レポートが多くて大変。

心待ちにしています、こんなドクター



高橋 雪輝 医師
(2008年 滋賀医科大学卒業)

● 2008年4月京都民医連中央病院にて研修をスタート

研修医の苦勞、やりがい

自分の知識の乏しさ、病歴聴取・身体所見のとり方、病棟での動き方、電子カルテの使い方などあらゆることに苦勞します。しかしながら、これらのことが日に日に1つずつできるようになっていくことへの喜びがあります。また、研修医は忙しいといっても指導医上級医よりははるかに時間があり、その分患者さんと接する時間も多く、患者さんの満足度を少しでも高めることができることは大きな喜びの一つです。また当院は研修医が症例プレゼンテーションする機会が非常に多く、日々の業務をこなしながらの準備は負荷が多く大変な作業ですが、自分なりの進歩を実感でき喜びへとつながっていきます。

学んでほしいこと

最も大切なことは、患者さんだけでなく看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士など他の医療スタッフとのコミュニケーションだと思います。医療は決して医師1

人で遂行できないので、コメディカルとのやりとりは真っ先に学ばなければいけないことです。また、しっかりとした病歴や身体所見をとる癖をつけておくこともとても重要だと思います。学ぶべきことを列挙すればきりがありませんが、まずは医師としての基本的なスタンスを身につける時期だと思っています。

まずは実習へ

どの病院にも、いい部分もあれば改善を要する部分もあると思いますが、まずは実際に研修医がどのような表情で働いているかを見るのが大事だと思います。様々なことに苦しみつつも生き生きと過ごしている姿をぜひ実習を通して体感してください。

※ 京都民医連中央病院は滋賀民医連の臨床研修協力施設です。

● この10年間で、35名の滋賀医科大学卒業生が民医連で研修しました。

取材を終えて…



滋賀医科大学1年生

今回は研修医の先生について回る実習だったので、診療所の先生などよりも自分の将来に近いこともあって、より興味を持って実習にのぞみました。

意外だったのは研修医の先生が指導医の先生なして、ある程度のことばはこなしていることでした。自分でしっかり考えて判断されていて、困ったときは相談しやすい雰囲気だったのが良いなと思いました。

また先生が事務作業など患者さんの前以外でもいろいろな仕事があって大変だなと感じました。1日の実習でしたが、今まで遠いイメージの研修医の先生が少し近くに感じられるようになりました。



患者さんの「ありがとう」、笑顔が私の原動力

坂本民主診療所 看護師長 音野知恵美



民医連との出会いは偶然でした。それまで「民医連」ということばも聞いたことがなく、バイトがきっかけとなり、看護学校へ、そして就職することになりました。特に訪問看護を通じて、看護の楽しさを知ったように思います。患者さんの「ありがとう」のことがば笑顔が私の看護の原動力となり、小さな変化や気づきが私の喜びとなったように思います。さらに、患者さんの生活

をもとらえていく視点が大切だと知ることができました。私にとって民医連とは、医師、看護師、他の職種みんなで創りあげていける、そして自分の意見が反映される、さらに患者の変化とともに喜びあい、共有できる場所ではないかと思っています。心に残った場面や実践を大いに語りあい、ともに民医連医療を創っていきませんか。

地域医療、チームで支えています

ぜぜ診療所 診療放射線技師 宅間広記



民医連の診療所は地域に密着し、プライマリヘルスケアの要となっています。医師、看護師、技師、事務といった様々なスタッフが、常に患者を中心に据え、病状のみならずその生活背景までを視野に入れた医療活動を展開しています。医学生のみならず皆さんの実習においても、スタッフ全員で様々な

関わりを持たせていただきます。病院だけでは経験することのできない地域医療の実態を、私達と一緒に様々な視点で体験してみませんか。一つの経験が、まだ気づいていない新たな可能性を生んでくれると思います。



「豊かに生きる」ためのお手伝い

デイサービスセンターほっこり 介護職 平尾亮



「医師になろう」と歩を進めている時、みなさんはどのような気持ちでしょうか？「生命を大切に」とよく聞きます。私たちは生きていく限り、生命の誕生から別れ(死)までを様々な場面の中で経験します。その中で私たち介護士は、生活の場面で相手の生命を大切

にすることを求められます。その人は、どう生きようとしているのか…どう死を迎えようとしているのか…どちらも大切なことです。家族の思いもあるでしょう。身近に接する一人として、医療・介護従事者の役割は大きいと思います。「喜怒哀楽」の感情を当たり前前に感じられる場を、みなさんと共有できたらと思います。



健康に暮らす取り組みを地域全体で

しが健康医療生協副理事長 新谷勝己



しが健康医療生協草津東支部では、「野菜は1日300gを食べよう」と「地元産の安全で新鮮な野菜がほしい」を合言葉に、こびらい診療所前で毎週月曜日「健康朝市」に取り組んでいます。新鮮で安全な野菜を地域に販売しています。最近は支部の仲間から「年をとって1人暮らしはさび

しいし、不安もある。みんなどう考えてる？」という声が出されました。話題は「お年より同士で生活できないの」と発展しました。今、支部の目標は、みんなで住めて、看護や介護も安心できるグループホームづくりです。こんな支部づくり、取り組みを応援してください先生や看護師のみなさん、ぜひ、滋賀民医連に来てくださいね！

